

松山城ロープウェイ駅舎から9まで徒歩8分

9から10まで徒歩10分



く だぶつあんあと
9 愚陀佛庵跡
 明治28(1895)年に漱石と子規がともに暮らした上野邸の離れはここに建てられていた。愚陀佛庵は昭和20(1945)年7月の松山大空襲で焼失。現在は、子規記念博物館の常設展示室内に、1階部分が復元されている。

全体マップ.P1-D-3



カラーラインに注目!



10 俳誌「ほととぎす」創刊の地

俳誌「ほととぎす」は柳原極堂によって明治30(1897)年に誕生。のちに高浜虚子が後を継ぎ、「ホトトギス」と名を変えて現在に引き継がれている。

全体マップ.P1-E-3



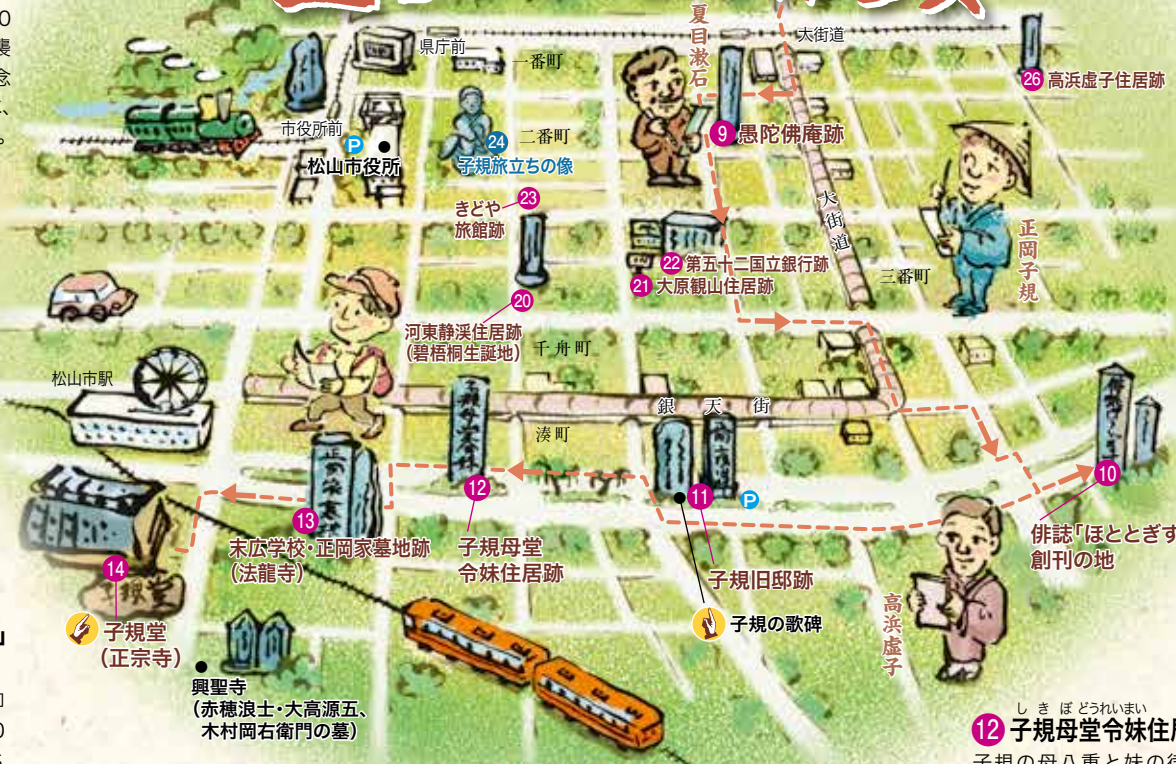
10から11まで徒歩5分

のぼさんと歩く

坂の上の雲マップ

ぼろっと城下コース

- 小説ゆかりの地(小説に登場する内容)
- 小説関連地
- その他の地域資源
- 寄り道チェックポイント



「松山市駅」に戻ったらゴール!
 「ゆ〜湯〜道後コース」へは、「松山市駅」から、市内電車で道後方面へ!

- 松山市駅 → 道後公園 市内電車で19分
- ※坊っちゃん列車は、道後公園には停車しません。道後温泉(駅)に停車しますのでご注意ください。

ぐるっと城下コースゴール!

14 子規堂(正宗寺)

子規が上京する17歳まで暮らしていた湊町の住居を正宗寺の傍らに復元。当時はイメージさせる机などが置かれた書斎には、遺墨や遺品など子規の資料が展示されている。
 9:00~17:00 (入館は16:40まで)
 休 無休 ☎089-945-0400

Check 正宗寺境内

正岡家累代の墓をはじめ、子規の遺髪を納めた埋髪塔や、内藤鳴雪の髻塔(ひげとう)などがある。



全体マップ.P1-E-2



13から14まで徒歩3分

11 子規旧邸跡

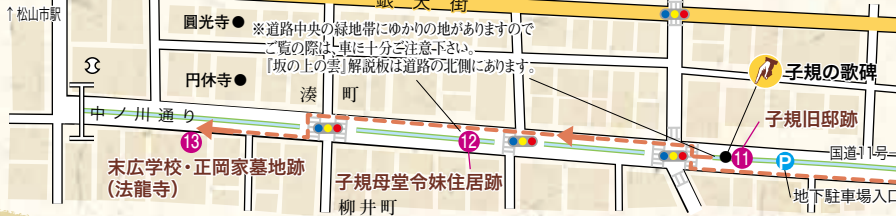
子規が2歳から17歳で上京するまで過ごした住居跡。小説には敷地の広さ180坪ほどある。隣には、わが国最初の子規の歌碑が建てられている。



Check 子規の歌碑

昭和26(1951)年に建てられた歌碑には、「くれなゐの梅散るなへに故郷につくつみにし春し思ほゆ」が刻まれている。

全体マップ.P1-E-2,3



11から12まで徒歩2分

12 子規母堂令妹住居跡

子規の母八重と妹の律が、明治21(1888)年から東京に移る明治25(1892)年まで暮らした家の跡である。四畳と六畳の二間しかない小さな家に、大学生の漱石が帰省中の子規を訪ねて立ち寄り、松山鮓を食べた。



12から13まで徒歩2分

13 末広学校・正岡家墓地跡(法龍寺)

正岡家累代の墓はこの寺にあったが、昭和2(1927)年に正宗寺に移された。寺に設けられた寺小屋式の小学校である末広学校(のち智環学校と改称)には幼い子規も通った。



ぐるっと城下コース